

園芸学科通信 第5号

前期選択講座を校外学習で受講する
「地球温暖化とびわ地球市民の森」
■びわ地球市民の森
森づくりセンターに於いて
講師 今井 純一 氏

園芸学科第39期生が受講している前期選択講座の一環として、校外学習を実施しました。
今回の講座は、守山市水保町にある滋賀県営都市公園「びわ地球市民の森」において、講師「地球温暖化とびわ地球市民の森」をテーマに受講しました。
当日は、現地集合、現地解散であったため、あらかじめ決めていたとおり、居住通学地域にいるメンバー数人づつがグループになり、自動車に分乗して守山市に向かいました。
集合は、二月二十三日(木) 九時四十五分、びわ地球市民の森の近くにあるJAおつみ富士「おつみ富士」駐車場をあらかじめ指定してあったので、駐車場に到着したメンバーごとに出発簿にサインし、店舗の中に入り産地特有の農産物や特産品を眺めたり買い物をするなどして集合時刻までを過ごしました。



午前中の講話は、森づくりセンター内の「セミナールーム」において行いました。講師は、森づくりセンター代表であり、元森づくりセンター所長の今井純一氏です。「地球温暖化とびわ地球市民の森」と題して、森林の働きや地球温暖化と森林の役割、びわ地球市民の森16年の経過と今後の取り組みを中心に講話を受けました。



びわ地球市民の森 HPより

これは、南流の河川と北流の河川は廃止となり、南流の河川の一部を利用した平地化事業が行われてきました。このうち、南流河川の一部を利用した長さ3.2キロメートル、幅100メートル、200メートル、面積42.5ヘクタールを「豊かな森」として生まれ変わりました。



レイカディア大学・米原校



- まず最初に、地球温暖化対策に有効なものは森林であることから、滋賀県の事例をあげてその内容説明があった。
1. 森林の役割・働きについて
① 森林は、その成長段階において、空気中の二酸化炭素(温暖化ガス)を吸収し、樹木の中に養分を固定することで大気を良い状態に保つ。
2. 水資源を良く保つ
② 水を貯えておくことで、洪水や土砂崩れを防ぐ働きが水源を守り、災害を防ぐ。
3. 多くの種類の野生の動植物の住みかを守る、遺伝子、生物の種、生態系の保全をすることで生物環境を保全する。
4. 木材、木炭、パルプ材の供給などエネルギー資源の再生や供給をすることで生活資源を供給する。
5. 雄木や森の中を散策し、自然観察をする中で、心身の健康回復を高め、保健効果が見直されている。
2. 森林の現状
① 滋賀県内の森林状況について、その面積は県の約二分の一で天然林約55%、人工林約45%である。
2. 林業従事者の減少
価格の安い輸入材による産業として成り立たない、従事者の高齢化により伐採用材の確保が難しくなっている。伐採用材が手に入らないので、木材不足により有価物(薪)が人里に出てくる。森林面積が減少、森林構造に変化が起きている。身近な自然が減少している。

そのため、滋賀県の森林現状を踏まえて「琵琶湖森林づくり条例(2004)」を制定した。これまで林業に支えられた森林や木材生産、森林所有者主体で行われてきた「手入れが進まない人工林」を公益財としての森林や水源、県土保全や自然環境の保全の多面的機能、森林所有者と県民の協働により「環境林」としてゆくことになった。
また、2006年には「琵琶湖森林づくり県民税条例」を制定。「琵琶湖森林づくり基本計画」により、
① 環境に配慮した森林づくりの推進
② 県民の協働による森林づくりの推進
③ 森林資源の環境利用の促進
④ 時代の森林を支える人づくりの推進を項目ごとに講義を受けた。



昼食の後は、ノコギリや剪定ばさみなどを使って、間伐や枝落としなどを行う実習です。講師は「平塚英史氏」で「植栽の関わり、枝落とし、つる切り」などを実際森林の中に入り行い、作業ができるよう服装に改め、センターがあらかじめ準備した作業用具(ノコギリ、剪定バサミ)を腰につけて準備万端、勇んで集合しました。
ウォーキングコースとして整備されたコースの中で、センターから徒歩で約2.5分離れた故郷ゾーン「密木コース」まで散策しながら歩き、実習の現場である森の中で、間伐や剪定する樹木を前で見ると木の切り方や伐採の仕方、切った後の枝の整理方法など、平塚講師の説明を聞きました。さあ、実習の開始です。数人グループで森の中に入り、あらかじめヒール紐がまかれた木の前で格闘する。この数分、見事に切り落とした枝を前に満足な顔してやったりと水を得た魚のようである。用意された樹木も数十分後には終了した。
その後、平塚講師がぜひとも見て欲しい樹木がある、同地域に漂と立っている「密木(幹が分かれ、再び上の方で幹がくっついて一緒に成長しているもので、窓のように見える珍しい木で、山の神が宿る木といわれている)」の場所まで歩いた。
右の写真は、窓枠の形のようになった珍しい木「密木」です。

編集後記
平成29年2月25日発行「第39期・園芸学科通信第5号」をお届けします。
今回の講話は、久しぶりの校外学習、しかも守山市にある「びわ地球市民の森」初見の場所だったので、なかなか期待を持って参加した。だが、事前に森の案内図をもらっていたが、見事に森林が整備されていた。実習で伐採や間伐を行ったが、すべてが格闘された。木を切ることは簡単ではあるが、木の長い活が必要と感じることができた。今回は、選択講座「講座だけ」の記事にする方針があった。「園芸学科通信」に載せるための記事が必要だ。投稿を待っています。(佳)

